

## さまざまな方の方力で 成り立っている消防団

「20年前、消防団で活動する父の姿を見て、自分もまちの役に立ちたいと思い入団しました。今後は副団長として女性の視点を大切にしながら精一杯活動していきたいです」と抱負を語る山本さん。

「消防団は、防火・防災のための広報活動や訓練のほか、災害時の消火活動などに従事します。男性だけでなく、女性も在籍しており、災害現場においては、主に後方支援や被災された方のケアなどを行っています。冬の火災で出動した際、女性団員が被災した家族の方に毛布を掛け、背中をさすり、気持ちを落ち着かせるなど、被災者に寄り添ったケアを行ったところ、『女性団員が側にいてくれて安心した』という言葉をいただいたことが心に残っています」と話す山本さん。女性団員の必要性を改めて感じたと語ります。



▲地域防災の要として、日々訓練に励む女性団員と指揮を行う山本さん（右）

市民の安全のため、活動に打ち込む消防団員。大規模災害の発生を想定し、連携の強化に力を入れているそうです。

「訓練や研修、勉強会などを通じて、防災・減災のための活動を積極的に行っていきたいですね。また、大規模災害などが発生した際には各分団が一丸となって対応にあたる必要があるため、平常時から各分団間の横の連携もこれまで以上に強化し、いつ起きるかわからない災害に備えていきたいです」。

## あなたの想いで このまちを守りませんか

まちの安全の一助を担う消防団ですが、消防団員が不足している現状があると山本さんは話します。

「全国的に消防団員が減少しており、登別市も例外ではありません。特に登別地区と登別温泉地区は女性団員がいない状況です。消防団の活動に興味をもった方は、男女問わず、消防本部（☎9611）にご連絡いただければと思います」と入団を呼び掛けます。

まちの安全・安心のために日々活動する消防団。その活動は私たちを守る大きな力となっています。



KIRARI

やまもとふみこ  
**山本富美子**さん（中央町）

現在、7分団147人が在籍している登別市消防団。普段は会社勤めなどを行っている消防団員は、仕事の傍ら、防火・防災啓発活動や資機材の取り扱い訓練などのほか、火災の消火、災害時の救助や避難誘導などを消防職員と連携しながら行い、まちの安全・安心を守るため活動しています。

平成9年から登別市消防団に入団し、平成23年には女性分団の分団長に就任した山本富美子さんは、平成28年10月より、女性としては胆振・日高地方で初、道内でも3番目となる消防団の副団長に就任されました。

今回は、消防団員としてさまざまな活動を行う山本さんに、活動の様子や今後の取り組みなどを伺いました。

## まちへの想いが活動 の原動力となっています。

昭和34年、せたな町生まれ。57歳。

室蘭東高校（現在の室蘭東翔高校）を卒業後、海外留学などを経て、昭和55年から5年間、登別市社会福祉協議会に勤務。その後、山本商店に勤める。平成9年に登別市消防団が女性団員の募集を開始したことから入団し、現在までまちの安全・安心のため精力的に活動している。